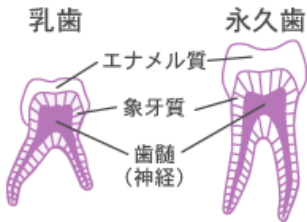


乳歯から永久歯への生えかわり

からだの成長にあわせて、あごも成長して大きくなります。

そして、あごの成長にあわせて、こどもの歯「乳歯」から、おとなの歯「永久歯」へと生えかわります。永久歯が生えそろうと、噛む力が強くなり、いろいろな食べ物をじょうずに食べられるようになります。

乳歯の役割



食べ物をかむ



発音を助ける



顔の形を整え
あごの発育を助ける



永久歯が正しい位置に
生えてくる目印になる

乳歯の厚みは永久歯の1/2以下です。ムシ歯の進行スピードも速いので要注意！！

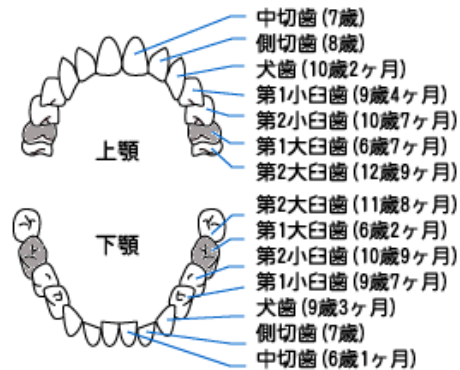
永久歯の生え代わり時期には個人差があります。

一般的には前歯が低学年より交換がはじまり、小臼歯は高学年まで生え代りません。

小学校時期の口腔管理がとても大切です！



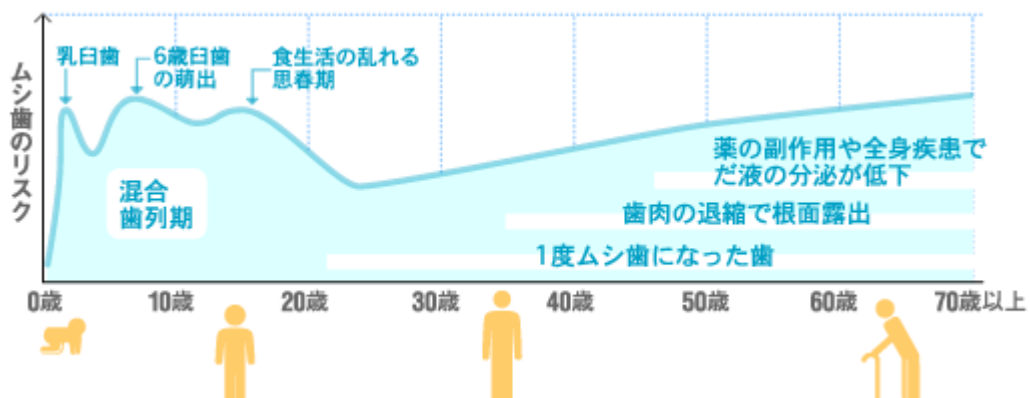
永久歯が乳歯の根を溶かして生えかわりをします。



前歯は低学年から、奥歯は高学年で交換します。

歯が交換期間は、歯並びが不ぞろいだったり、歯の高さがでこぼこしていたり、歯肉がかぶさっていたりして、歯みがきがしにくく、口の中に汚れがたまりやすくなります。

また、生えてから2～3年以内の歯はムシ歯になりやすく、特に注意が必要です。

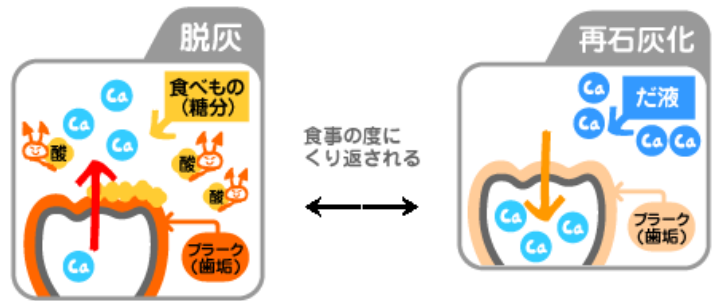
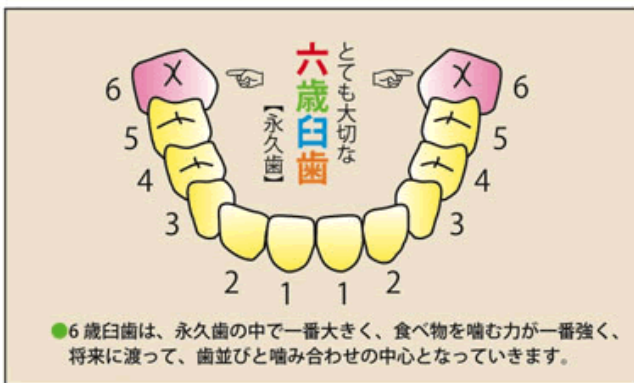


ブラッシングのポイント

小学校 低学年

5歳～7歳頃になると永久歯の代表「6才臼歯」が生えはじめます。6才臼歯は、乳歯の奥歯の後ろにあるので、生えはじめの頃は見えにくく、生えたことに気づかないことも！

この時期おすすめのハブラシはヘッドが小さく奥歯に届きやすいハブラシです。乳歯の奥歯と同様に細かくハブラシを動かすことがポイント。



食事のたびに歯を溶かす「脱灰」とカルシウムで固める「再石灰化」がくりかえされています。食後にすぐ磨き、汚れを残さないことも大切です。

小学校 中・高学年

永久歯が多く生えてきたら、歯みがきの方法は、大人と同じようにおこないます。生えはじめの歯は デリケートですから、あまりゴシゴシと強くこすると、歯肉を傷つけるおそれがあります。

ハブラシを大きく動かさずに、できるだけ細かく動かすことがポイントです。また、生えはじめの歯は、高さがほかの歯より低く、みがき残しをしやすいので注意が必要です。

[10～14歳のムシ歯の有病率]	
6歳臼歯72%
7歯33%
5歯11%
4歯4%
3歯0.4%
2歯1%
1歯0.5%
(メーカー調査/下顎平均値)	



お口でお困りの際は、
いつでもご相談ください

オザワ歯科クリニック
川崎市中原区中丸子589-11
Mメディカルプラザ2階

044-433-6480